徳島新聞　２０２２年（令和４年）９月２６日　月曜日（１６）スポーツ掲載
徳島新聞社提供

県高校野球 秋季大会 第3日

生光学園 劇的サヨナラ

城北延長十回痛恨の一打

高校野球の第75回徳島県秋季大会第３日は25日、鳴門オロナミンＣ球場とＪＡアグリあなんスタジアムで１回戦２試合と２回戦３試合が行われ、第１シードの徳島商、第２シードの鳴門渦潮、池田が８強入りした。生光学園は延長十回、岸本の大会第１号となるランニング本塁打で城北に１－０でサヨナラ勝ちした。徳島商は４－２で城南に、脇町は８－７で阿南高専に競り勝った。鳴門渦潮は14－０で板野を、池田は11－４で小松島をそれぞれ八回コールドで下した。大会第４日の10月１日は、鳴門オロナミンＣ球場で２回戦３試合が行われる。（藤島慶祐、冨士佳輝）

◇JAアグリあなんスタジアム
▽1回戦（第1試合）

城北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生光学園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

（延長十回）

【評】生光学園が延長十回の末、中軸の1発で投手戦を制した。両チーム無得点で迎えたこの回、2死後無走者から5番岸本が左越えのランニング本塁打を放ち試合を決めた。先発の大山は十回を115球で5安打完封。城北は一回の先制機を逃したのも響き、12奪三振と力投した左腕飯田を援護できなかった。

生光学園対城北　10回裏、生光学園2死走者なしから岸本が試合を決める左越えランニング本塁打を放つ＝JAアグリあなんスタジアム（山﨑哲撮影）

主将 試合決める

○…生光学園は、チームリーダーの劇的なサヨナラ本塁打で激戦に終止符を打った。城北の先発飯田に4安打に抑えられ、延長十回もすでに2死。ここで2安打と相手左腕にタイミングが合っていた5番の岸本主将に打順が巡ってきた。

「塁に出ることを心掛けた」といいながらも、積極性は忘れていなかった。やや甘く入った初球の直球を振り抜いた打球は風にも乗って左翼手の頭上を越えた。打球処理のもたつきを見逃さず、一気に本塁を陥れた。

完封した1年生の大山は「先輩が打ってくれると信じていたので、ピンチでも冷静に投げることができた」。1年生の粘投に会心の一打で応えた岸本は「主将としての役割を果たせた」と笑顔で話した。

第3日の成績

▽1回戦
生光学園 1－0 城北
脇町 8－7 阿南高専
▽2回戦
徳島商 4－2 城南
鳴門渦潮 14－0 板野
池田 11－4 小松島

【城北】

		打	安	点
⑥	渡邊	4	1	0
⑤	松家	3	0	0
②	向井	4	1	0
④	米澤	4	1	0
⑦	真開	4	0	0
①	飯田	4	0	0
⑧	湊	4	0	0
③	田伏	3	0	0
⑨	五島	3	2	0
振球犠併残				
7	1 0 0 4	33	5	0

【生光学園】

		打	安	点
⑨	荒中	4	0	0
④	杉本	4	0	0
⑥	渡邊	4	0	0
③	安藝	4	0	0
⑦	岸本	5	3	1
⑤	上田	4	0	0
⑧	今西	3	1	0
②	桁谷	3	1	0
①	大山	3	0	0
振球犠併残				
12	7 0 1 11	34	5	1

▽本塁打＝岸本▽三塁打＝五島▽盗塁＝城0、生1▽失策＝飯田▽暴投＝2▽試合時間22分

投手	回	打	安	責
飯田	9⅔	41	5	1
大山	10	34	5	0